

## 森為三先生県文化賞受賞祝賀会

於 神戸新聞会館 K C C

昭和34年10月17日

1. 開会の辞 渋谷氏  
1. 祝辞 県生物学会代表 広瀬氏

森先生は兵庫県の大先輩であり生物学会の会長として、実にうまく会の運営に当られた。今日の受賞は私の気持としては、遅きに過ぎた感じであります。先生は生物学者として一生を通して来られた方であるが、単に動物学の分野のみでなく、植物学の領域にまで及んでいられることは、今日数少い博物学者の第一人者といえると思います。さらにこの受賞は先生の学問的な業績のみでなく、御人柄によるものと思います。今後とも御健康で、研究に励まれ、後進の指導に当つて頂きたいと思います。

武庫川学院代表 片山氏

私は武庫川学院において、非常に御世話になつて

居るものであります。昭和11年以来県庁におりまして、県生物学会の活躍につねづね敬意を表しておりました。森先生の御令兄はその関係で良く存じておりますが、御令兄の本県教育会に残された業績は真に輝かしいものがあります。その御令弟の森先生の朝鮮での業績は、今更多言を必要といたしません。先生の学生ならびに我々教育関係者に対する影響、感化は非常なものでありまして、今日の農科大学の隆盛も先生のお力による所が多いのであらうと思います。今日の受賞は先生の業績と御人格によるものではあります。その間における令夫人の御苦勝に敬意を表したいと思います。

1. 記念品贈呈 佐藤氏  
2. 森先生の謝辞

昨年(1997)の11月3日に県文化賞を受けたのにつきまして、今日県生物学会の有志の方からこのような盛会を持って頂き、この寒さにもかかわらず、しかも遠方からも多数御参会を頂き私のライフヒストリー中、特記すべきことと存じます。只今は広瀬、片山両先生から祝辞を頂き厚く御礼申し上げます。私は兵庫県に生れておりますが、朝鮮に渡りその地で骨を埋める覚悟でございましたが、敗戦後兵庫県に帰りわずか十数年で県の文化賞を頂くのは恐縮の極みであります。生物学会の会長としては名前のみで何も働いておりません。私の博學は私のよるめいた結果ではないかと思えます。始めは朝鮮の植物の研究をしようと思っておりましたが、それも中井氏にバトンを渡し、鳥類の研究もずいぶん金がかかるので私の手にはおえないと思い、第一次大戦後の留学の時に多数集めました文献がありますのと、金があまりかからない点、又恩師のお言葉もありまして、魚類の研究を行つた次第であります。今後は老骨に鞭打つて兵庫県で働き骨を埋める覚悟であります。生物学会も会員の皆様の力でますます発展して行きますよう、また農科大学の発展も一途をたどることを念じて居ります。重ねて今後もよろしくお願い致します。

- 3. 乾 杯 倉 橋 氏
- 4. 祝 電 福本氏、井上氏、古川氏の祝電を渋谷氏が披露
- 5. 会員の祝辞 奥 谷 氏

篠山で新聞により文化賞の受賞を知り、今日の会の催されるのを心待ちしておりました。今日は喜んで参加させて頂きました。農大に居られた頃の先生のエピソードなどを話して祝辞にしたいと思えます。森先生の名前は昆虫学者として知つたのでありますが、農大へ参り先生が魚類学者であることを知りました。先生の風格は新任の助手が小使いと間違



祝賀会の森会長(当津)

Wotsu

えたくらい親しまれる方でありました。また先生が70才を過ぎた方とは思われにくいくらい、御健康で、多紀アルプスに採集に行かれた時、先頭を切つて登られたのは先生でありました。今後共御健康で長生きされ、若い者を御指導して頂きたいと思えます。

司会者の方から会員の祝辞はつぎつぎ指名して行くようにとの発言があり、参会者全員が祝辞を述べたが、その頃には会場もその雰囲気になり、またアルコールも程良く回り、祝辞を述べる者も、記録を取つておる者もともども……。

(記録・浜野、東)